

2020年度 JANPIA非資金的支援の評価勉強会

非資金的支援を促進するための
評価と指標の考え方

米原 あき

東洋大学

専門社会調査士

「そのもの自体」の“よさ”
内在的価値＝本質

評価とは？

EVALUATION=Extract Value

(価値value(＝善さ)を引き出すextract)

それが社会（外部）に
もたらす“よさ”
社会的価値＝意義

客観的に見た
そのものの“よさ”
外在的価値＝値打ち

「そのものの自体」の“よさ”
内在的価値＝本質

めっちゃ美味しい
まあまあ美味しい
どちらともいえない
あんまり美味しくない
めっちゃ不味い

美味しい？

『大阪で有名な食べ物
と言えば何？』
→何％が「たこ焼き」
と回答したか？

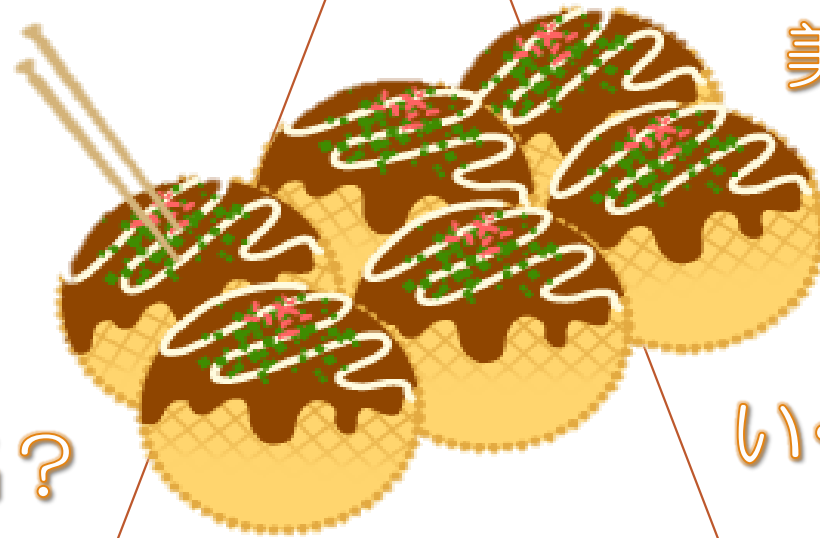
有名？

指標＝値段だ
けじゃない！

いくら？

それが社会（外部）に
もたらす“よさ”
社会的価値＝意義

客観的に見た
そのものの“よさ”
外在的価値＝値打ち



評価とは？

「評価は物事のメリット、値打ち、意義を体系的に明らかにすることである」
(Scriven, 1991:139)

“Evaluation is the systematic determination of merit, worth and significance of things”

評価 = 事実特定 + 価値判断
(Evaluation) (Factual identification) (Value determination)

出所：佐々木亮 (2010:3)

データ、エビデンス

指標

指標🔗ロジックモデルに基づいて検討する

アウトカム（→指標化したいこと）	指標
研修参加者が積極的に学び、研修内容を習得する。 →3週間の研修が充実していたか	
みどりが溢れる活気のあるまちになる。 →市民が余暇生活を楽しんでいるか	
市立病院が人々の健康づくりに貢献している。 →病院が市民に活用されているか	

- 一番トンデモナイ指標はどれですか？
- 一番マトモな指標はどれですか？

指標👉ロジックモデルに基づいて検討する

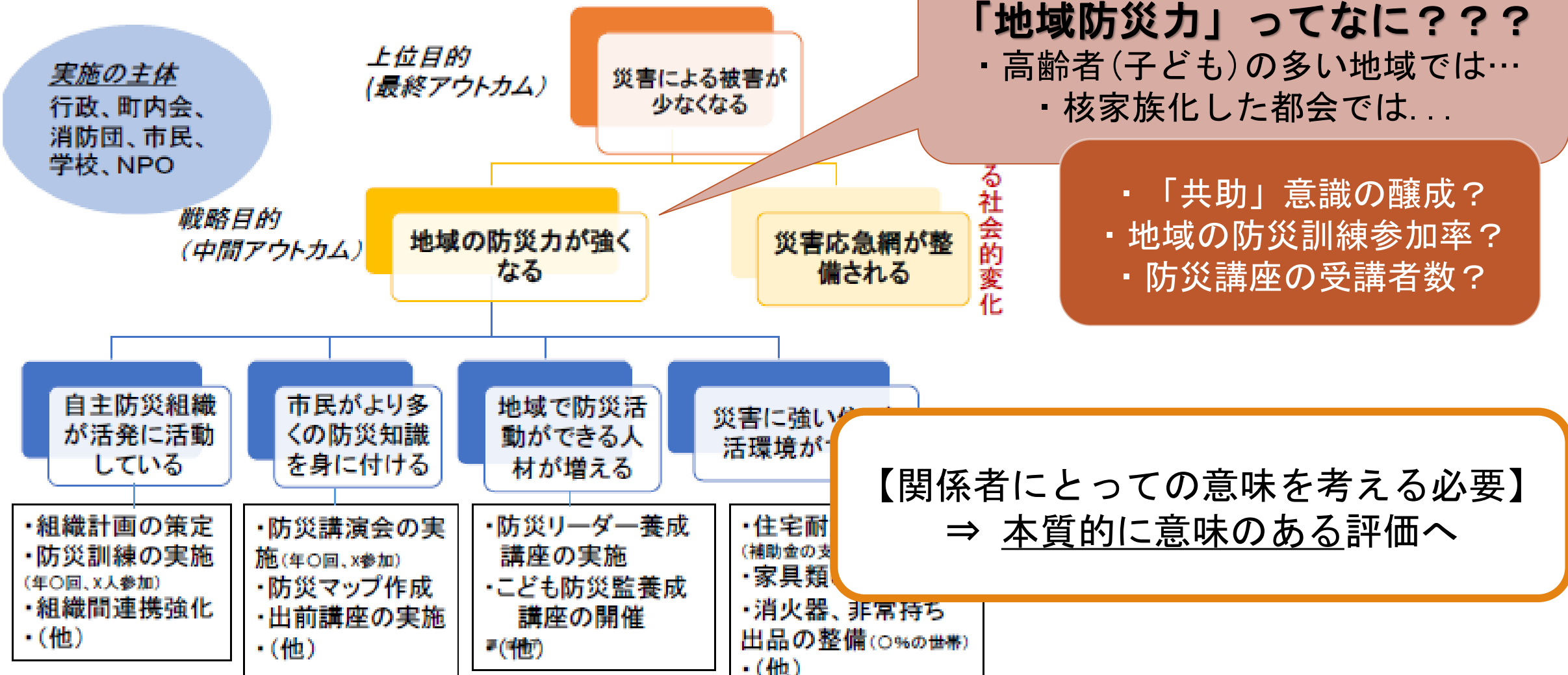
アウトカム（＝指標化したいこと）				指標	
研修参加者が積極的に学び、研修内容を習得する。 →3週間の研修が充実していたか				体重	
みどりが溢れる活気のあるまちになる。 →市民が余暇生活を楽しんでいるか				一人当たり公園面積	
目標値KPI	平成X年	平成(X+1)年	平成(X+2)年	平成(X+3)年	平成(X+4)年
公園面積／人 m ²	4 m ²	5 m ²	5 m ²	5 m ²	5 m ²

- 👉 「みどり溢れる」＝ 公園面積？
- 👉 人口減少＝公園面積／人、上昇！
（「活気ある」とは？？？）

「価値value」を引き出せているか
評価≠測定 ➡セオリー

指標📊ロジックモデルに基づいて検討する

【例】T市安全・安心な都市：地域の防災力向上



指標 ⇨ 既存の指標にとらわれない

「追いかけたくなる指標」

→ Big visionから指標を描く

「指標が存在するか否か」ではなく「何が知りたいか」

(=改善のためにはどんな情報が必要か)

⇨ だからロジックモデルが役立つ

⇨ その必要に応じて「質か量か」を検討する

準備

- ・ ロジックモデルの作成
- ・ ロジックモデルに基づく指標の策定

収集

- ・ 評価目的 (=ロジックモデル) を念頭に置いたデータ収集

活用

- ・ ロジックモデルに照らした結果の解釈
- ・ 改善に向けた結果の活用

「何が知りたいか」が念頭にあれば、柔軟に対応できる

防災訓練を行った…

「とにかく皆さんに来て欲しい！」

⇒ **参加者数** (どの地域が少ない?)

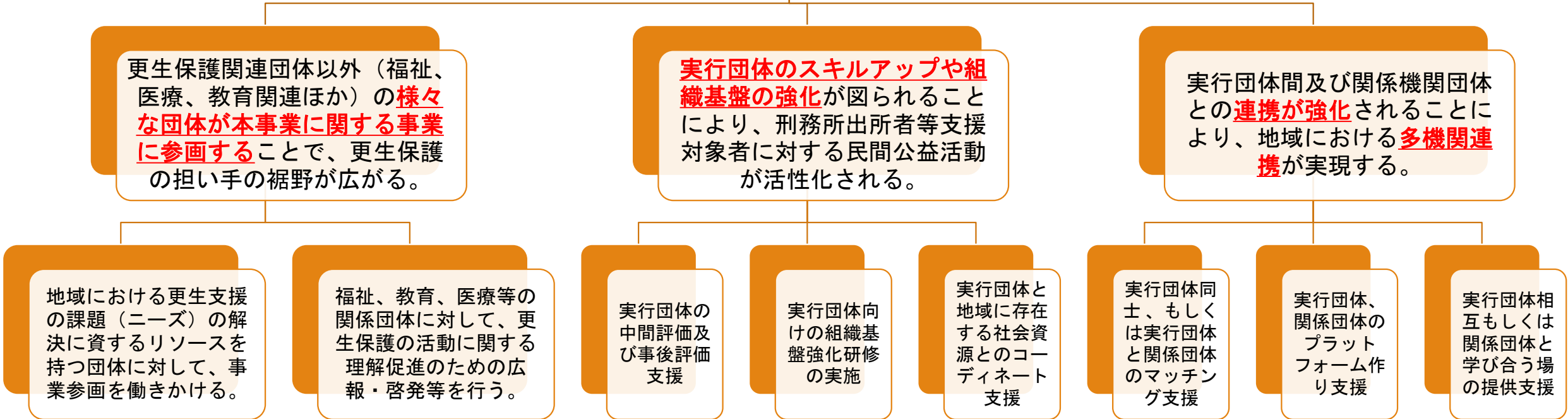
「ちゃんと技術を身に付けて欲しい！」

⇒ **演習・実習** (属性による違い?)

良例：安心・安全な地域社会づくり支援事業(非資金的支援)

Thanks to: 日本更生保護協会 様

【スーパーゴール】罪を犯した人が再び社会の一員として包摂されることで更生し、再び犯罪に至らないようにすることにより、安全・安心の地域・社会になる。●既存団体の運営体制の強化のみならず、更生保護を担う新たな団体等の裾野が広がることで、地域社会における更生を支える基盤の充実が図られる。●本支援事業による取組の全部または一部が、国または地方公共団体の政策として取り入れられ、事業化される。
⇒そのための「非資金的支援」とは？？？



良例：安心・安全な地域社会づくり支援事業(非資金的支援)

Thanks to: 日本更生保護協会 様

【スーパーゴール】罪を犯した人が再び社会の一員として包摂されることで更生し、再び犯罪に至らないようにすることにより、安全・安心の地域社会づくりが実現することにより、更生保護の強化のみならず、更生保護を担う新たな

本事業に参画・協力した事業者のうち、更生保護活動の担い手又は協力者となった事業者の数

すべての項目に義務的に張り付ける...？
⇒ 改善に有用な情報
⇒ 経年変化を追いかけていきたいポイント

- ①ネットワークにつながる団体・個人の数
- ②NW内の交流・連絡の方法、頻度、内容
- ③NWを活用して行う支援活動の内容

更生保護関連団体以外（福祉、医療、教育関連ほか）の様々な団体が本事業に関する事業に参画することで、更生保護の担い手の裾野が広がる。

更生保護の強化が図られることにより、刑務所出所者等支援対象者に対する民間公益活動が活性化される。

実行団体間及び関係機関団体との連携が強化されることにより、地域における多機関連携が実現する。

⇒事業者の多様性？

「多ければ良い」ではない？！

- ① 参画団体(福祉・医療・教育)の網羅性・バランス
- ② 地域によるニーズの違い(教育ニーズ？福祉ニーズ？)

⇒初期値0？

現状把握（事前調査）を！

- ① “増える”ことだけが価値ではない、“維持”が重要なことも
- ② 目標値は本当に必要か？ “変化”に注目すべきケースも

⇒静的情報と動的信息

- ① 「アウトプット指標」と「アウトカム指標」(連携が“強化”されている、“機能”している、“活用”されている)
⇒ 社会調査で確認できる

ロジックモデルから、指標化したい／すべきアウトカムを選ぶ	アウトカム (ロジックモデルより)	【例】地域防災力が高まる	
把握したい「状況」を描く ㊦ 既存の指標に捉われない ㊦ 「指標化できるか否か」を考えすぎない	把握したい状況・現象 (何を測りたいのか)	万一災害が起こっても、率先して「私が助けに行く」と思い行動できる住民が多いので、安心して暮らすことができる	
上記の状況を「具体的に切り出す(＝操作化する)」としたら？	指標化	・「自主防災組織」に対する地域住民の安心感 ・「共助の意識が浸透している」という地域住民の実感 ㊦ 「自主防災組織率」や「(共助意識を育成するための)市民講座の開講数・参加者数」などはアウトプット指標(≠アウトカム指標)	注 意！ ・ アウトプット＝直接的な結果 ・ アウトカム＝状況の変化
社会調査によってデータを集める場合、どのような聞き方で収集するか？ 必要なデータにつながる適切な聞き方とは？	質問項目 聞き取り項目 (調査の場合)	・ あなたの地域の自主防災組織についてどう思いますか？ とても頼りになる～全く頼りにならない ・ あなたの区では、災害時、被害を軽減するために「住民同士の助け合い行動ができる」と思いますか？ とてもそう思う～全くそう思わない	【アウトプット指標】 ・ 防災出前講座の実施状況 ・ 市民総参加訓練への参加率 ・ 住宅再建共済への加入率 ・ 自主防災組織の有無 ➡ アウトプットだけでよい…？

指標策定の 留意点

■ 妥当性のある指標を設定すること

- ・ 測定における妥当性とは...

「測定すべきものを測定していること」

(例：みどり溢れる＝公園面積？)

⇒ ロジック・モデルに基づいて指標を設定する

■ 目標値は要不要を検討したうえで明確に設定すること

- ・ 根拠となるデータに基づき、意味が明らかな曖昧さのない数値を

(例：参加率目標値＝80% ...なぜ？)

- ・ 目標値が**必要ない**ケースも少なくないので注意

指標策定の 留意点

■実績値と目標値の比較の基準を的確にすること

- ・「目標値－実測値（目標値への到達度）」OR

「介入開始時－終了時（変化率）」

⇒目標値を達成することが重要なのか、（目標値に届いていなくても）確実に変化が起こっていることが重要なのか、つまり、上位目的は何か。

⑨ 相対評価RANKING(成果) ≠ 絶対評価RATING(変容)

■指標間・プログラム間の比較は丁寧に行うこと

- ・比べられないものは比べないこと

（例：A地区とB地区の自主防災組織・組織率

...高齢化地域と再開発地域では比較不可能）

ストレスフルな指標？
それとも、

わくわくする指標？
旅のお供になる指標？



ご清聴ありがとうございました